

項目	現状・課題等	10年後の目指す姿	目指す姿を達成するための対応の方向性						
<p><b>漁業担い手の確保・育成</b></p> <p><b>長期ビジョンとのつながり</b></p> <p>3 教育 -21 産業を発展させる人材を育てます</p> <p>6 仕事・収入 -39 意欲と能力ある経営体を育成し、農林水産業の振興を図ります</p> <p>6 仕事・収入 -42 一人ひとりに合った暮らし方ができる農山漁村をつくります</p>	<p>1 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者の減少、高齢化、後継者不足</li> <li>・ 零細経営体が多い</li> <li>・ 漁家子弟以外の者の新規就業が増加傾向</li> <li>・ 漁業者減少に伴う空き漁場、遊休資産の発生への懸念</li> </ul>  <p><b>【本県漁業就業者の推移と将来予測】</b> 出所: 漁業センサス(農林水産省)を加工</p>  <p><b>【年間販売高別漁業経営体の構成比】</b> 出所: 水産振興課調べ</p> <p>2 課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域漁業をけん引する意欲と能力の高い漁業担い手の育成</li> <li>(2) 漁家子弟を含めた地域内外からの多様な新規漁業就業者の確保</li> </ol>	<p>3 目指す姿</p> <p>意欲と能力ある漁業担い手が、先端技術・省力化機器の導入などで経営を効率化し、所得の安定や向上を図りながら地域漁業をリードしている。</p> <p>また、地域漁業の魅力として将来に希望がもてる就業環境と生活環境が地域毎に整備され、多様な就業希望者の理解が得られている。</p> <p><b>【根拠・考え方】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域漁業をけん引する意欲と能力の高い漁業担い手の育成             <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 漁業者の減少などに伴う生産機会の増大を活かして、漁業者それぞれの意欲や能力に応じた経営規模の拡大を促進。 ⇒ 生産力や経営力に富む「<b>中核的漁業経営体</b>」の育成</li> <li>(2) 漁家子弟を含めた地域内外からの多様な新規漁業就業者の確保                 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 漁業関係団体、市町村及び県の連携により、地域内外から意欲ある就業希望者が集まり、安心して就業できる環境の構築を推進。 ⇒ 地域毎の「<b>新規漁業就業者</b>」の受入体制の整備</li> <li>イ 「いわて水産アカデミー（仮称）」を核として、将来の地域漁業の中核を目指す志の高い新規漁業就業者の技術・知識の習得と地域への定着を支援。 ⇒ 「<b>アカデミー受講生</b>」の<b>確実な確保</b>（ハイレベルな就業準備機会の提供）</li> </ul> </li> </ul> </li> </ol>	<p>4 対応の方向性</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域漁業をけん引する意欲と能力の高い漁業担い手の育成             <ul style="list-style-type: none"> <li>ア ICT技術や省力化技術の導入などによる経営規模の拡大 漁業者の高齢化や従事者不足など限られたマンパワーの中で経営規模の拡大を促進(ICT技術や省力化機器の積極導入、生産方法の改良や技術普及)</li> <li>イ 漁協や漁業者自らの販売スキルの向上 6次産業化など漁協や漁業者の販売技術・能力の向上を促進(直販や自家加工などによる販売ルート確保への助言、知識や技術の習得に向けた講習会の開催)</li> </ul> </li> <li>(2) 漁家子弟を含めた地域内外からの多様な新規漁業就業者の確保             <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 「市町村単位の漁業担い手組織」を核とする就業希望者の受入環境の整備 地域内外からの就業希望者の確保を促進(漁業者のなりわいや暮らしを地域漁業の魅力として積極的に情報発信、養殖業の漁協自営や協業化による就業環境の整備、住居確保などの生活面の支援、フォローアップによる地域への定着支援、優良事例の共有による各組織のレベルアップ)</li> <li>イ 「いわて水産アカデミー（仮称）」を核とする就業準備カリキュラムの提供 将来の地域漁業をリードする人材の育成を推進(漁業者に必要な基礎的な知識、技術のほか、最新の情報や技術を駆使した効率的な漁業経営手法の習得、地域住民・漁業者との交流を通じた地域への定着、大学生・先輩漁業者・研修生同士の交流を通じた人脈形成、研修修了生による後輩研修生の相談対応(メンター制度)、若手漁業者のネットワーク構築)</li> </ul> </li> </ol> <div data-bbox="1834 1129 2724 1690"> <p><b>「いわて水産アカデミー（仮称）」</b> <span style="float: right;">H31年度開設予定</span></p> <table border="1"> <tr> <th>就業希望者の確保</th> <th>技術・知識の習得支援</th> <th>本格就業・地域定着支援</th> </tr> <tr> <td> <p>① 就業情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ インターネット(SNS等)</li> <li>◆ 就業支援フェア</li> </ul> </td> <td> <p>② 就業準備研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 座学研修</li> <li>◆ 実践研修</li> </ul> </td> <td> <p>③ 就業・定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ メンター制度の導入</li> <li>◆ 熟練漁業者をメンターとする研修修了生のマンツーマンでのフォローアップ</li> <li>◆ 青年漁業者のネットワーク構築</li> </ul> </td> </tr> </table> </div> <p><b>【「いわて水産アカデミー（仮称）」のイメージ】</b></p> <p>ウ 新規就業者の独立支援体制の構築 地域の漁業者として早期に独立できる支援体制づくりを促進(指導漁業士などの熟練漁業者がマンツーマンで生産技術や経営ノウハウを指導、空き漁場を対象とする漁業権行使や廃業した漁業者の漁船や資材の承継などによる小資本でも独立できる支援体制)</p>	就業希望者の確保	技術・知識の習得支援	本格就業・地域定着支援	<p>① 就業情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ インターネット(SNS等)</li> <li>◆ 就業支援フェア</li> </ul>	<p>② 就業準備研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 座学研修</li> <li>◆ 実践研修</li> </ul>	<p>③ 就業・定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ メンター制度の導入</li> <li>◆ 熟練漁業者をメンターとする研修修了生のマンツーマンでのフォローアップ</li> <li>◆ 青年漁業者のネットワーク構築</li> </ul>
就業希望者の確保	技術・知識の習得支援	本格就業・地域定着支援							
<p>① 就業情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ インターネット(SNS等)</li> <li>◆ 就業支援フェア</li> </ul>	<p>② 就業準備研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 座学研修</li> <li>◆ 実践研修</li> </ul>	<p>③ 就業・定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ メンター制度の導入</li> <li>◆ 熟練漁業者をメンターとする研修修了生のマンツーマンでのフォローアップ</li> <li>◆ 青年漁業者のネットワーク構築</li> </ul>							

# 本県水産業の目指す姿と対応の方向性（案）

項目	現状・課題等	10年後の目指す姿	目指す姿を達成するための対応の方向性
<p><b>漁業生産の回復</b></p> <div data-bbox="172 472 379 577" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <b>長期ビジョン とのつながり</b> </div> <p>6 仕事・収入 -40 収益力の高い「食料・木材供給基地」をつくります</p> <p>6 仕事・収入 -42 一人ひとりに合った暮らし方ができる農山漁村をつくります</p>	<p><b>1 現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漁業者の減少に伴う生産力の低下（漁場、養殖施設、漁港施設の有効活用への期待）</li> <li>海洋環境の変動によるサケ等主力魚種の漁獲量の減少</li> <li>養殖用種苗調達における県外への依存</li> </ul> <div data-bbox="430 556 1083 1008"> <p style="text-align: center;"><b>【本県漁業生産量の推移】</b></p> <p>出所：漁業・養殖業生産統計（農林水産省）を加工</p> </div> <div data-bbox="430 1165 1083 1564"> <p style="text-align: center;"><b>【秋サケ漁獲量の推移】</b></p> <p>出所：水産振興課調べ</p> </div> <p><b>2 課題</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>地域の漁業生産力を回復するための生産性の向上</li> <li>漁業者の収益向上につながる高度な増養殖技術の開発等</li> </ol>	<p><b>3 目指す姿</b></p> <div data-bbox="1127 346 1751 630" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">         漁業者が減少傾向にある中でも、生産技術の高度化や水産資源の造成などにより、<b>中核的な漁業者を主体とする生産規模の拡大が図られ、県全体の漁業生産量が回復し、消費者に対して良質な水産物を安定的に供給している。</b> </div> <p><b>【根拠・考え方】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>地域の漁業生産力を回復するための生産性の向上</b>              漁業者の減少が不可避な状況でも、将来の地域の漁業生産力を維持していくため、漁業者の生産性の向上や労働力の相互補完体制の構築を促進。              ⇒ 省力化・協業化などにより「<b>漁業者一人当たりの生産量</b>」を増大</li> <li><b>漁業者の収益向上につながる高度な増養殖技術の開発等</b>              サケ漁獲量の回復に向けた回帰率の向上のための資源造成の高度化、漁港水域の有効活用による増養殖などを推進              ⇒ 革新的な技術開発と導入により、「<b>サケの回帰率</b>」の向上などを推進</li> </ol>	<p><b>4 対応の方向性</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>地域の漁業生産力を回復するための生産性の向上</b> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>養殖漁場を効率的に利用できる仕組みづくり</b>                      養殖漁場を効率的に利用できる新たなルールづくりを促進（漁業者の生産能力や意欲に応じた漁場利用、漁協自営養殖、地域の模範的な漁業者の作業方法の見える化と共有、漁業者と企業との生産連携（相互理解を前提））</li> <li><b>養殖作業の省力化・協業化</b>                      養殖作業にける省力化機器の積極的な導入や協業化などを促進（ワカメ自動刈取機の導入、養殖協業体の組織化、ワカメ後芯抜き方式の導入など）</li> <li><b>水産資源の持続的利用</b>                      水産資源の持続的利用に向けた資源の管理、造成、保護培養の推進（太平洋クロマグロやミズダコなどの資源管理、サクラマスなどの資源造成と保護培養、漁業者の経営安定対策、アワビなどの密漁取締の充実）</li> <li><b>効率的な漁業生産に向けた漁港の整備</b>                      水産物の陸揚げ作業等の効率化・省力化に資する浮棧橋等の計画的な整備を推進</li> </ol> </li> <li><b>漁業者の収益向上につながる高度な増養殖技術の開発等</b> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>温暖化など環境変動に適応したさけ増殖技術の開発</b>                      サケの回帰率が高くなる種苗生産技術の開発を推進（初期減耗要因の解明、遊泳力や海水適応能力の向上、高水温でも回帰する北上川水系のサケの特性の解明と特性を利用するための技術の開発など）</li> <li><b>漁港内での新しい増養殖モデルづくり</b>                      漁港水域の階層的利用による効率的な増養殖の実証試験を推進（アワビ、ウニ、ナマコ、魚類など）</li> </ol> <div data-bbox="1914 1302 2611 1690" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>【漁港内での増養殖モデルのイメージ】</b></p> </div> </li> <li><b>市場ニーズの高い水産物を安定供給するための技術開発・普及</b>              養殖生産の効率化や多様化の推進（ワカメ、カキ類などの人工種苗を活用した養殖技術の開発、種苗の県内での自給率向上など）</li> <li><b>水産資源の維持・増大に向けたアワビ・ウニ増殖場の整備</b>              漁業者のニーズを踏まえながら、漁業者が容易に漁獲・管理が可能なアワビ・ウニの増殖場整備を推進</li> </ol>

# 本県水産業の目指す姿と対応の方向性（案）

項目	現状・課題等	10年後の目指す姿	目指す姿を達成するための対応の方向性																		
<p><b>付加価値向上・販路開拓</b></p> <div data-bbox="172 468 379 594" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>長期ビジョンとのつながり</p> </div> <p>6 仕事・収入 -39 意欲と能力のある経営体を育成し、農林水産業の振興を図ります</p> <p>6 仕事・収入 -40 収益力の高い「食料・木材供給基地」をつくります</p> <p>6 仕事・収入 -41 農林水産物の付加価値を高め、販路を広げます</p> <p>6 仕事・収入 -42 一人ひとりに合った暮らし方ができる農山漁村をつくります</p>	<p><b>1 現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サケ、サンマ、スルメイカ等の主要魚種の漁獲量の減少に伴い、水産加工品の生産量が伸び悩み</li> <li>地域における主要魚種以外の多様な水産資源（タラ、イサダ等）の存在</li> <li>高次加工のシェアが低い</li> <li>国内人口の減少（食需要の先細り）</li> <li>震災を契機とする漁業者と消費者等との絆の形成</li> </ul> <div data-bbox="430 611 1101 1020"> <p><b>【本県水産加工業の生産量と生産額の推移】</b> 出所: 生産量は「水産物流通調査」(農林水産省)、生産額は「工業統計調査(経済産業省)」 ※ H28の生産額は、国の調査結果が未発表につき不明</p> </div> <div data-bbox="430 1251 1101 1661"> <p><b>【高次加工品の構成比の推移(全国比較)】</b> 出所: 「水産物流通調査」(農林水産省)を加工 ※ 高次加工品は、「冷凍水産物」を除く水産加工品構成比は、製品重量ベース</p> </div>	<p><b>3 目指す姿</b></p> <div data-bbox="1136 359 1789 678" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>水産物の生産から流通、加工までの一貫した衛生・鮮度管理の徹底を基本として、<b>地域で水揚げされる水産物の付加価値の向上</b>が図られ、その価値を生産者と消費者等が共有できる<b>ネットワークが整備</b>されることにより、それぞれの地域において<b>将来にわたり持続可能な収益性の高い水産業</b>が営まれている。</p> </div> <p><b>【根拠・考え方】</b></p> <p>(1) <b>地域水産物の高度利用による付加価値の向上</b> 本県の水産加工品の多くが冷凍水産物等の低次加工にとどまっている一方で、近年は、主要魚種が不漁傾向にあり、加工原料が不足していることから、地域に水揚げされる水産物の魅力を最大限に生かすことで競争力のある製品を供給するための高次加工を促進 ⇒ 本県で生産される水産加工品総量のうち、「<b>高次加工品</b>」(冷凍水産物を除く加工品)の構成比を向上</p> <p>(2) <b>漁業者と消費者等との交流ネットワークの構築</b> 漁村地域において漁業者と消費者等との活発な交流により、地域の水産物を核とする生産環境や食文化等の魅力の共有を促進 ⇒ 漁業者の生産物に対するこだわりを付加価値としてその志を共有する消費者と直接つながることで、<b>漁業者の所得向上を促進</b>(「<b>中核的漁業経営体</b>」の育成)</p>	<p><b>4 対応の方向性</b></p> <p>(1) <b>地域水産物の高度利用による付加価値の向上</b></p> <p><b>ア 安全・安心を基本とする高品質な水産物の供給</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域毎の高度な水産物供給体制の構築を促進(漁獲から陸揚げ、流通・加工までの一貫した衛生・品質管理を行う「高度衛生品質管理地域づくり」、貝毒の発生予測や毒値を下げる技術開発、HACCP導入促進)</li> <li>復興道路などの新たな交通ネットワークの活用による水産物の高鮮度物流を促進</li> </ul> <p><b>イ 加工原料の多様化による地域水産物の高付加価値化と販路開拓</b> 地域の水産物の高付加価値化や販路拡大を促進(水産加工事業者を対象とする商品開発等に関する専門アドバイザーの派遣、水産加工品コンクールや展示商談会の開催、国内外の販路開拓の支援など)</p> <div data-bbox="1878 779 2733 989" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【取組モデル】(有)丸友しまか(宮古市)</b> 近年の主要魚種の不漁に伴う加工原料の多様化や転換を図るため、同社では地元の特産物であるマダラなどを原料とする高次加工品づくりを精力的に行っている。 (H29 岩手県水産加工品コンクールで「農林水産大臣賞」を受賞)</p> </div> <p><b>ウ 市場ニーズの高い水産物を安定供給するための技術開発・普及</b> 地域水産物の付加価値向上に係る技術的支援を推進(通電加熱などの新しい加工技術を活用した商品開発の支援、本県水産物のおいしさに関する成分の季節変動の科学的評価など)</p> <p>(2) <b>漁業者と消費者等との交流ネットワークの構築</b></p> <p><b>ア 漁業者と消費者との協働による水産物の新たな付加価値創出等</b> 消費者の多様な参画体験を付加価値とする新たな商品・サービスの創出を促進(地域の水産物そのものの価値を基本として、漁村文化などの地域資源を付加価値として活用)</p> <div data-bbox="1834 1444 2733 1850" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【取組モデル】綾里漁協青壮年部(大船渡市)</b> 震災を契機として、漁業者と消費者が地域の漁業に対する思いや価値観をSNSや現地交流会で共有しながら、食材付き情報紙を定期的に発行している。 (H29年度農林水産祭で「内閣総理大臣賞」を受賞)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>概念</th> <th>6次産業化</th> <th>6次産業化 + 価値共創<sup>※</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>価値の創出者</td> <td>生産者主体</td> <td>生産者 + 消費者等</td> </tr> <tr> <td>イメージ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>【凡例】</td> <td>●: 生産者 ○: 消費者</td> <td>●: 生産者 ○: 消費者</td> </tr> <tr> <td><b>【新しい価値】参画経験</b></td> <td colspan="2">生産者と消費者等が、価値の創出を通じて「<b>夢・感動・喜び・愛着</b>」等を共感</td> </tr> <tr> <td colspan="3">※ 「価値共創」とは？ 生産者と消費者との協働による新たな商品開発やサービスの創出</td> </tr> </tbody> </table> </div>	概念	6次産業化	6次産業化 + 価値共創 <sup>※</sup>	価値の創出者	生産者主体	生産者 + 消費者等	イメージ			【凡例】	●: 生産者 ○: 消費者	●: 生産者 ○: 消費者	<b>【新しい価値】参画経験</b>	生産者と消費者等が、価値の創出を通じて「 <b>夢・感動・喜び・愛着</b> 」等を共感		※ 「価値共創」とは？ 生産者と消費者との協働による新たな商品開発やサービスの創出		
概念	6次産業化	6次産業化 + 価値共創 <sup>※</sup>																			
価値の創出者	生産者主体	生産者 + 消費者等																			
イメージ																					
【凡例】	●: 生産者 ○: 消費者	●: 生産者 ○: 消費者																			
<b>【新しい価値】参画経験</b>	生産者と消費者等が、価値の創出を通じて「 <b>夢・感動・喜び・愛着</b> 」等を共感																				
※ 「価値共創」とは？ 生産者と消費者との協働による新たな商品開発やサービスの創出																					
	<p><b>2 課題</b></p> <p>(1) <b>地域水産物の高度利用による付加価値の向上</b></p> <p>(2) <b>漁業者と消費者等との交流ネットワークの構築</b></p>		<p><b>イ 女性の感性・能力を生かした漁村ビジネスの創出</b> 女性の活躍の場としての漁村ビジネスの創出を推進(地域住民との協働、情報共有と相互研鑽のための地域ネットワークづくり)</p>																		

# 本県水産業の目指す姿と対応の方向性（案）

項目	現状・課題等	10年後の目指す姿	目指す姿を達成するための対応の方向性
<p><b>長期ビジョンとのつながり</b></p> <p>6 仕事・収入 -40 収益力の高い「食料・木材供給基地」をつくりま</p> <p>6 仕事・収入 -42 一人ひとりに合った暮らし方ができる農山漁村をつくりま</p>	<p><b>1 現状</b></p> <p><b>&lt;漁港&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漁業者の減少、高齢化が進行</li> <li>大震災からの漁港の復旧工事は概ね完了</li> <li>防波堤など一部の施設で老朽化が進行</li> <li>台風の大型化等による漁港被害が毎年発生</li> </ul> <p><b>&lt;漁村&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>L1津波<sup>※1</sup>に対応した防潮堤の復旧・整備は4割が完成</li> <li>復興事業で整備している高台への宅地造成が概ね完了</li> <li>漁業集落における下水道の普及率が県全体と比較して低位（H28末：県全体79.8%、漁業集落71.9%）</li> <li>被災を受けなかった漁業集落排水施設の老朽化が進行</li> </ul> <p><b>2 課題</b></p> <p>(1) 漁業生産の効率化・就労環境の向上など、計画的な漁業生産基盤の整備が必要</p> <p>(2) 高波や地震・津波などの自然災害に備えた漁業地域の防災力強化が必要</p> <p>(3) 生活環境の改善や既存ストックの有効活用によるにぎわい創出など、魅力ある漁村づくりが必要</p> <hr/> <p>用語の定義（中央防災会議の資料から引用）</p> <p>※1 L1津波：最大クラスの津波に比べて発生頻度は高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波</p> <p>※2 L2津波：発生頻度は低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波</p>	<p><b>3 目指す姿</b></p> <p>(1) 計画的な漁業生産基盤の整備</p> <p>生産基盤の計画的な整備により、漁業作業の省力化・効率化が進み、女性や高齢者でも働きやすい環境が構築されている。</p> <p>(2) 漁業地域の防災力強化</p> <p>高波や地震・津波の自然災害に対して、生産基盤である漁港施設の機能が強化され、持続的な漁業生産が可能となっている。 また、L1津波に対応する防潮堤が機能を発揮しているとともに、L2津波<sup>※2</sup>に対しても、防災力の向上が図られ、安全で快適な漁業地域が形成されている。</p> <p>(3) 魅力ある漁村づくり</p> <p>漁村生活環境の整備が進み、都市部との生活環境格差が改善しているとともに、漁港ストックの有効活用が進んでおり、都市住民や外国人等による観光客が増大し、漁村のにぎわいが創出されている。</p>	<p><b>4 対応の方向性（主なもの）</b></p> <p>(1) 計画的な漁業生産基盤の整備</p> <p>ア 水産物の陸揚げ作業等の効率化・省力化に資する浮棧橋等の計画的な整備を推進</p> <p>イ 漁港施設の機能保全計画に基づき、適時適切な補修等による施設の長寿命化を推進</p> <p>ウ 水産資源の維持・増大に向けたアワビ・ウニ増殖場の整備等を推進</p> <p>(2) 漁業地域の防災力強化</p> <p>ア 地震・津波などの自然災害に備えた防波堤・岸壁等の機能強化を推進</p> <p>イ 漁港からの避難体制の構築など、ソフト・ハード施策を組み合わせながら、漁業地域の防災力向上を推進</p> <p>ウ 被災した沿岸地域の防災対策や地域づくりの方向性を踏まえた海岸保全施設の復旧・整備等を推進</p> <p>(3) 魅力ある漁村づくり</p> <p>ア 漁村の快適な生活環境の向上を図るため、漁業集落排水施設などの整備等を促進</p> <p>イ 漁村のにぎわい創出を図るため、漁業体験や余暇活動の場として漁港を活用するなど、漁港施設の多目的利用を促進</p>

